

令和3年第5回定例公安委員会会議録

開催日時 令和3年2月25日(木) 午前11時10分～午後2時20分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時5分

2 出席者

公安委員会 衣笠委員長 勝部委員 久本委員

警察本部 服部警察本部長 川島警務部長 柴田首席監察官
河本生活安全部長 長谷高刑事部長 保田交通部長
谷村警備部長 本庄警察学校長 濱口情報通信部長
細田警務部参事官

(事務局等～松本公安委員会補佐室長、総務課員)

3 議題事項

○公安委員会宛ての苦情に対する回答(警務部)

○「令和2年政策評価報告書」及び「令和3年推進・評価計画書」の策定(警務部)

(1) 公安委員会宛ての苦情に対する回答(警務部)

警察本部から、公安委員会宛ての苦情に対する回答案について説明がなされた。

委員

調査状況や回答案について事前に説明を受けており、このとおり決裁する。

(2) 「令和2年政策評価報告書」及び「令和3年推進・評価計画書」の策定(警務部)

警察本部

政策評価は、県民の視点に立った効率的かつ効果的な警察活動を推進し、その

結果を公表して県民の理解を得ることを目的としており、県警察においては平成17年から毎年実施している。

令和2年政策評価報告書及び令和3年推進・評価計画書とも、県警察の重点目標に沿った項目を設けている。

昨年主な成果として、「総合的な犯罪抑止対策の推進」では、令和2年中の刑法犯認知件数は1,814件であり、平成16年以降17年連続で減少した。

「重要犯罪等の検挙と組織犯罪対策の推進」では、殺人未遂事件、強制性交等の事件を検挙したほか、六代目山口組と神戸山口組の対立抗争に伴い、両団体を特定抗争指定暴力団等に指定するなどの必要な措置を講じた。「交通死亡事故抑止に資する総合対策の推進」では、交通事故死者数は17人と前年より14人減少したほか、交通事故件数及び負傷者数ともに平成17年以降16年連続で減少した。「テロの未然防止と緊急事態対策の推進」では、国際テロの未然防止等に向けた各種対策を推進したほか、原子力事故発生を想定した機能運用訓練を実施するなどした。「警察活動基盤の充実強化」では、採用も含めた若手職員の育成、タイムリーな広報活動、男性職員の育児休業の取得促進等の取組を推進した。

これらの内容を中心に令和2年の報告の取りまとめを行い、成果を踏まえ、令和3年の計画を作成した。本年も推進計画書に沿った取組を強力に推進していく。

今後、県警察のホームページに「令和2年政策評価報告書」及び「令和3年推進・評価計画書」の概要を掲載するほか、各警察施設の窓口に備え付けて公表することとする。

委員

全体として刑法犯認知件数は減少したが、昨年は特殊詐欺被害が増加したので、引き続き、諸対策を行っていただきたい。

働き方改革については、本年も県警察のワークライフバランス等推進計画に沿って取り組んでいただきたい。

委員

刑法犯認知件数の減少と交通死亡事故件数の減少は、これまでの県警察の取組の成果だと思う。同じことの繰り返しではなく、県警察として内容を評価し、検討を続けることが必要である。PDCAを回し、より安全で安心な県民生活のために、しっかりと取組を行っていただきたい。

委員

詳細は事前に説明を受けており、この内容で公表していただきたい。今後も県民の理解と協力が得られるよう、よろしく願います。

- 初任科生に対する非違事案防止教養の実施（警務部）
- 新通信指令システムを活用した警察活動（生活安全部）
- 3月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

（1）初任科生に対する非違事案防止教養の実施（警務部）

警察本部

本年1月22日、卒業を控えた初任科生に対し、警察官としての自覚を促し、非違事案防止の徹底を図ることを目的として教養を実施した。

教養内容は、監察課長による飲酒に起因する非違事案防止、警察情報の取扱い、仕事の失敗と迅速なりカバリー、健全な交際及びハラスメント防止に関するもののほか、個別教養として、女性初任科生を対象に、ハラスメント相談窓口を担当する女性警部による教養を実施した。

初任科生に対する教養は今回で5回目となり、毎回、教養終了後にアンケートを実施している。回答については若干の差はあるものの、全体的に内容の理解度は高く、最も興味がある内容もリカバリーに関するものが一番多い。出席者からは、「非違事案を起こしてしまうと、組織等に迷惑をかけるので、自覚ある行動をしていきたい。」などの感想があった。

毎回、教養に当たっては、アンケート結果を踏まえ、より分かりやすく、興味を持たせるよう工夫して行っている。今後も卒業を控えた初任科生に対する同様の教養を継続し、非違事案防止の徹底を図る。

委員

県民は、警察官に求めるレベルが高いと思う。勤務中だけではなく、私生活においても警察官としての誇りを持ち、自覚を忘れないでいただきたい。

委員

非違事案が発生すれば組織へのダメージも大きいので、重要性を認識し、非違事案防止対策に取り組んでいただきたい。

委員

非違事案防止については繰り返しの教養が大切だと思う。また、職場内での相談しやすい雰囲気作りも大切だと思うので、引き続き、よろしく願います。

（2）新通信指令システムを活用した警察活動（生活安全部）

警察本部

110番通報に的確に対応するため、本年2月2日より新通信指令システムの

運用を開始した。

新たな機能として、警察官が携帯している端末の位置情報が確認できたり、同端末での画像情報の共有が可能となった。また、稼働率の高いパトカーに全方位が撮影可能なカメラを整備したことから、現場のライブ映像が撮影できるとともに、警察署等において映像の視聴が可能となった。

今後、これらのシステムを活用することにより、事件、災害等が発生した場合、リアルタイムで現場の状況を確認することが可能となり、迅速な事案指揮や、より適切で漏れのない初動対応への活用が期待できる。

委員

実際にシステムを視察した。有効なシステムだと思うので、しっかり活用していただきたい。

委員

言葉だけの説明よりも映像があると状況を理解しやすいと思う。技術は日進月歩であり、予算の関係もあるが、今後も必要に応じて良いものを活用できればと思う。

(3) 3月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

警察本部

現在入校中の初任補修科第39期は3月9日に卒業を迎える。卒業後は、警察署において実戦実習を行う。

3月中は専科等の入校はない。

行事関係は、2月1日に初任科第92期が卒業し、現在、警察署において職場実習を行っている。同実習終了後は、初任補修科生として警察学校に入校し、採用時教養を行う。

初任補修科生は、捜査書類検定、拳銃操法検定を実施した。例年、術科の昇段審査を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、今回は見合わせることにした。

委員

卒業式のニュースを見たが、りりしい姿だった。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で警察学校としても大変なことが多かったと思う。例年のように出来なかった教育もあると思うので、補完措置を執っていただきたい。

警察本部

他県警の情勢を確認しつつ、各配属先での補完等を検討していく。

委員

若手育成は、組織の維持、発展には不可欠なので、引き続き、よろしくお願いする。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取4件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞2件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

- ・公安委員会宛ての苦情に対する回答
- ・新通信指令システムを活用した警察活動

4 報告事項

- ・公安委員会宛て苦情の受理

5 決裁

- ・公安委員会宛ての苦情に対する回答
- ・「令和2年政策評価報告書」及び「令和3年推進・評価計画書」の策定
- ・指定自動車教習所事務処理規程の一部を改正する規程

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。